

## ヒップホップとレゲエミュージック

外国語学部英語学科 3年 中郡有香

本資料では、レゲエとヒップホップについての概要と日本における両者、及びそれらを先導した人物について書かれている。ゼミにおいて国際政治経済に関して幅広いテーマを扱ううちに、どうすれば世界平和は訪れるのかを考える機会があった。その結果、世界中の人々の心の豊かさについて焦点を当てたくなった。何とも稚拙ながら、国境や文化背景を超えた人々の心に訴える音楽やダンスが、世界を一つに出来ないかという想いが生まれ、このテーマをゼミ発表に選んだ。

初めに紹介しているレゲエとは、1960年代からジャマイカで発展したアフロカリビアンによる音楽のジャンルである。その原点は、アメリカ合衆国でリズム・アンド・ブルースと伝統的なアフロカリビアン音楽にある。一般的にはサウンド・システムという、巨大な移動式スピーカーを積み上げたものとスネアドラム、キーボードなどで演奏するケースが主流になっている。なお、レゲエの精神はラスタファリアニズムから成る。信者たちの主義としては、基本的にアフリカへの回帰が挙げられるが、他にも菜食主義や、ドレッドヘア、ラスタカラーと呼ばれる黒・赤・緑・黄色などを推奨している。彼らは、レゲエがこのラスタファリアニズムを伝えていくための手段だと捉えている。世界的にレゲエを広めた人物の代表者として、ボブ・マーリーが挙げられる。彼は1945年に当時ジャマイカを占拠していたイギリス人兵士と黒人女性の間で生まれた混血児である。幼い頃から複雑な家庭環境と社会的意識の中で、厳しく生きていくことを強いられた中、幼少時代はスラムで暮らしていた際、「嘆きの生活」の中でラスタファリアニズムと歌うことの幸せを見つけたのである。その後彼はボブ・マーリー & ザ・ウェイラーズという名前でデビューを果たし、世界的ヒットを発信していった。

ヒップホップの誕生にはレゲエを広めたサウンド・システムが大きく関与している。ヒップホップミュージックをアメリカに広めた代表的な人物の一人として、クール・ハークが挙げられる。彼はレゲエを演奏するDJとしてジャマイカで名を広めていたが、サウンド・システムを駆使して演奏する（2枚のレコードを同時に掛けて何度も繰り返す）オリジナルの「ブレイクビーツ思想」を編み出し、そのリズムをアメリカに持ち込んだところ、ヒップホップが生まれたと言われている。60年代頃から、主張を持ったMCと呼ばれる人々がリズムに合わせて韻を踏むラップを始め、今現在の形に至っている。

レゲエとヒップホップに共通することは、共に人々がストリートで自由に表現することから生まれており、個性や信念を軸にして、歌う人も曲自体も「誇り」や「プライド」を持っていることである。個性言葉や政治の壁を越えた音楽やダンスは、必ず人々の心をつなぐと考える。また、レゲエやヒップホップミュージックが、それを聴いた人々に喜びを提供し、いずれ世界を一つにすることを期待する。